

イノシシをやっつけろ



イノシシの被害が年々増加の一途を辿っている大河原町に2月17日、JAみやぎ仙南を代表し角田真由美JA理事から、イノシシ捕獲用箱ワナ1基が寄贈された。

JAみやぎ仙南総務部暮らし相談課佐藤隆課長は「コロナウイルス感染症の影響で、地域でのイベントができない代わりに地域のためにかできることはないかと考えた。害獣駆除と地域振興に貢献するため、仙南地域の丸森町内の会社が手作りで生産した箱ワナを、管内2市7町に寄贈することとした」と話す。

有害鳥獣捕獲隊の佐藤俊敏隊長は「早速ワナを仕掛けようと思う。現在町内に箱ワナを15基かけており、害獣駆除のために新たに役立てたい。寄贈された形状の箱ワナにはイノシシの親子計10頭が一度にかかっていたこともある。イノシシは鼻が利くのか、血の臭いがするとおよそ1年は臭いのする周辺に寄り付かなくなる。昨年9月に町から貸し出された電気止め刺し機で止めを刺すと、銃殺時のような血の臭いがせず、新たなイノシシが同じワナに掛かる」とイノシシ対策を熱く語り、農作物被害軽減を誓った。



【記事提供：大河原町農業委員会】